



Orchestre
de Paris

～うるわしのフランス音楽。

その正統なる伝承者達がやってくる～

パリ管弦楽団 Orchestre de Paris Quartette クアルテット

東京公演



「これぞ正統なるフランスの音。
本場フランスの弦楽四重奏が聴ける、千載一遇のチャンスがやつてきた！！」

前身のパリ音楽院管弦楽團時代を含め約180年以上の歴史を持つ『パリ管弦楽団』は極めて純度の高い、いわゆる正統な『フランス音楽』の伝承者であり、今なおヨーロッパで人気、実力ともに頂点に立つオーケストラのひとつです。今回の公演はそのパリ音メンバーによるクアルテットですが、正規メンバーのみによる室内楽コンサートは日本ではとても珍しく、今回のようにフランス音楽の『三大弦楽四重奏曲』ともいえる(ラヴェル、ドビュッシー、フォーレ)の3作品がプログラムとなると、演奏への期待というだけでなく、『希少性』という意味でも非常に価値の高いコンサートになることは間違ひありません。このクアルテットを聴かずして、フランス音楽は語れません…。

1st Violin ヴァイオリン

Christophe Mourguia
クリストフ・ムルギアール



2nd Violin ヴァイオリン

Saori Izumi
泉 沙織



Viola ヴィオラ

Florian Walléz
フロリアン・ヴァーレーズ



Cello チェロ

Emmanuel Gaugué
エマニュエル・ゴーゲ



2013年10月30日(水)

開場17:00 開演18:00(60分公演)



フランス音楽の“三大”弦楽四重奏曲

ラヴェル：弦楽四重奏曲 へ長調

ドビュッシー：弦楽四重奏曲 ト短調

フォーレ：弦楽四重奏曲 ハ短調 より抜粋

イオンモールつくば
3階イオンホール

【企画制作】株式会社 アンティル
【協力】株式会社 森音楽事務所

Orchestre de Paris

パリ管弦楽団は1828年に設立されたパリ音楽院管弦楽団時代を含めると、約180年以上の歴史を持つオーケストラです。

1967年、伝説の名指揮者であるシャルル・ミュンシュを首席指揮者に迎えてパリ管弦楽団として新たに設立され、

その後、ゲオルグ・ショルティやダニエル・バレンボイムなどが首席指揮者を歴任し、これまでいくつもの名演、名録音を残してきました。

2010年にはバーヴォ・ヤルヴィが首席指揮者に就任。今もなお、欧州を代表するオーケストラとして君臨し続けています。



Christophe Mourguiaart ファースト・ヴァイオリン
クリストフ・ムルギアール

パリに生まれる。7歳でヴァイオリンを始め、14歳でパリ国立高等音楽院に入学。1990年、ヴァイオリンと室内楽のブルミエ・ブリを得て卒業。その後ジュネーブ音楽院にて研鑽を積み、同大学院を首席で卒業。ピエール・アモワイヤル、ジャン=ピエール・ヴァレーズ、フィリップ・ヒルシュホルン、ヴィクトール・トレチャコフ各氏に師事。1999年からルイ・バーシンガーとカール・フレッシュ直弟子のミリアム・ソロヴィエフ氏の最後の弟子として薰陶を受ける。モーリス・ラヴェル大賞受賞、リビツア国際コンクール(瑞穂賞受賞)、トリエステ国際室内楽コンクールなどに上位入賞。ソロや室内楽でジュネーブ、イスタンブル、コソボ、ニューヨーク、東京、浜松などヨーロッパを中心に演奏活動を行っている。フランスではアルク、サンリジー、オルヌ、クールシュペル、ソーラなどの音楽祭に招待され高く評価される。ジェラール・コーセ、ジャン=ギアン、ケラス、クリストフ・ヘンケル、ニコラ・アンゲリッチ、アンリド・マルケット、ミシェル・ダルベルト、ジャン・ムイエールなどと共に、ステファン・ザンダーリング、ジャン=ピエール・ヴァレーズ、ジャン=マルク・コシュローなどの指揮者と共に演奏。エマニュエル・ゴーゲ、宮田理生とトリオ・クライスターのメンバーとしても活動。2003年より、パリ管弦楽団の第2ヴァイオリン首席奏者を務める。

Saori Izumi セカンド・ヴァイオリン
泉 沙織



札幌市出身。4歳よりヴァイオリンを始める。札幌北高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。大学在学中に安宅賞を受賞。その後、フランスに留学し、パリ国立地方音楽院にて研鑽を積む。これまでにヴァイオリンを土方幕之、岡崎陽江、水野佐知香、田中千香子、松原勝也、スザンヌ・ゲスネール、ミカエル・エンツ、バト里斯・フォンタナーラの各氏に師事、室内楽を岡山源、河野文昭、川崎和憲、イザイ弦楽四重奏団の各氏に師事。藍大フィルハーモニー管弦楽団、新日本

フィルハーモニー、東京都交響楽団と共演。2009年「東京音楽コンクール」で優勝、「ヴァトローヴァイオリンコンクール」で優勝。現在はフランスに在住し、おもにフランスでオーケストラ、室内楽など幅広く演奏活動をおこなっている。2010年よりパリ管弦楽団のヴァイオリン奏者を務める。



Florian Wallez ヴィオラ
フロリアン・ヴァーレーズ

1966年リールに生まれる。1980年ドゥーエ地方音楽院にて金賞受賞。1978年から1983年にかけて、ブルノ・バスキエ、ピエール・アンリ・グゼルブ・タツ・アダモプロス、フィオドール・ドロジナン、ユーリ・バシュメット各氏に師事。パリ国立高等音楽院ヴィオラ科に入学しセルジュ・コローのもとで研鑽を積み、1985年に同大学院を首席で卒業。1986年から1987年にかけて新フランス放送交響楽団とアンサンブルアンテルコンテンポラリーに所属し、1987年からパリ管弦楽団ヴィオラ奏者を務める。1993年から1999年、ドゥニクラヴィエ弦楽四重奏団のメンバーとして4枚のCDをリリース。1991年から1997年エコールノルマル・リジー、現在はルヴァロワ・モーリス・ラヴェル・コンセルヴァトワールにて教鞭をとる。



Emmanuel Gaugué チェロ
エマニュエル・ゴーゲ

パリ国立高等音楽院でチェロと室内楽を学び首席で卒業。1983年に入団したノヴァリス弦楽四重奏団でエヴァインコンクール上位入賞を果たし、その後プラット弦楽四重奏団としてもCDをリリースするなどして活躍。1985年、フランス放送交響楽團の首席チェリストに就任。1995年からはパリ管弦楽団の首席チェリストとして活躍している。ソリストとして、パスカル・ドヴァイヨン、ゲルハルト・オビツ、ブリジット・エンゲラー、エレーヌ・グリモー、ジャン・フランソワ・エッセール、エレーナ・バシュキロワ、クリストフ・エッシャンバッハなど数多くのピアニストと共に演奏。最近では、ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮でブルームスのダブルコンチェルトをフィリップ・アイシュと共に、ピアニストのエリック・ペルショーとともにサンサンス曲集を録音するなどして活躍している。